

「打って反省、打たれて感謝」 謙虚な気持ちで誠実な仕事を



おじゃまします

さかき新企業人インタビュー⑱

株式会社笠井建設 代表取締役社長

かさ い のり ひろ
笠井 識敬さん

座右の銘は「打って反省、打たれて感謝」。幼い頃から続けてきた剣道の言葉だそう。対戦する相手への感謝の気持ちと謙虚さ、互いに切磋琢磨する精神をあらわしているという。仕事でもこの言葉を忘れずに「誠心誠意、人に喜ばれる心のある建造物を造っていきたい」という笠井社長にお聞きした。

——まず、笠井社長の生い立ちについてお聞かせください。
昭和39年、坂城生まれです。屋代高校から大学に進み、土木工学科でコンクリートを勉強しました。子供の頃から慣れ親しんできた土木建築の世界に進みたいという思いがありました。卒業後はゼネコン

昭和39年、坂城生まれ。屋代高校から宇都宮大学工学部土木工学科に進み、昭和62年、大手ゼネコンの(株)間組に入社。大阪・北陸支店等で山陽自動車道や明石海峡大橋などのビッグプロジェクトに関わる。平成5年、家業の笠井建設を継ぐべく帰郷、平成19年代表取締役就任。小学4年からはじめた剣道は5段の腕前。今なお大会に出場しながら町の剣道連盟少年部の指導者として後進育成にも尽力。趣味は資格取得とパソコン。ホームページはご自身が手がける。「Macの新しい製品が出るについつい買ってしまうすね」と笑う。

で大きな仕事をしたくて間組に入社。念願がかない、高速道路のトンネル工事や原発建設など、大型プロジェクトに関わることができました。
——ゼネコン時代で思い出に残っている仕事は？
一番印象に残っているのは、明石海峡大橋ですね。橋梁の基礎工を行なうために潜水士の資格をとりました。実際、海中に潜って調査したんです。海の幸が豊富な瀬戸内ですから、食べ物もおいしくてね(笑)

——その後、実家にもどられたわけですが。
間組は7年間お世話になりました。もう少しいたかったのですが、父の具合が悪くなるので、戻りました。平成5年です。最初は勝手が違うので戸惑いましたし、当時は公共工事を受注できる体制になかったので、入札参加資格の手続き申請から始めました。結構大変でしたね。
——会社はお祖父様が創業されたのですね。
祖父の武雄が昭和30年に始めました。父の要が継ぎ、私で3代目、今年で57年です。創業当時から「人に喜ばれる心ある建造物をつくる」をモットーに、地元密着で土木、建築全般の仕事を続けてきました。現在は、公共工事をはじめ、民間建築、住宅リフォーム、下水道工事など、業務は多岐にわたります。業況の厳しい時代ですが、商工会のつながりでお声をかけていただくことも多く、忙しくさせていただいています。
——その商工会では、理事、建設部会の副部会長を務めておられますね。



——坂城へ戻った時、剣道のつながりで声をかけていただき青年部に参加したのがきっかけです。今は建設部会で活動させていただいておりますが、建築仲間のネットワークといえますか、同業者が横断的にチームを組み、お互い仕事の幅を広げていければいいなと思っております。特に若い人たち、青年部の人たちが中心に、そうした活動に取り組んでいます。
——ネットワークが町の建設業の活性化や若手の育成に繋がればいいですね。最後に笠井社長の信条をお聞かせください。
誠心誠意、です。真剣に心を込めて取り組めば皆さんに喜んでいただける。これは仕事に限らず、人との関わり全般にいえると思います。剣道の言葉に「打って反省、打たれて感謝」があります。傲慢になるな、常に謙虚であれ、相手に対する感謝の気持ちを忘れてはいけません、といった意味です。これも私の好きな言葉の一つです。